

令和6年度 大阪府立生野支援学校 第2回学校運営協議会 議事録

日 時	令和6年11月27日(水) 10:00~12:00	
場 所	大阪府立生野支援学校 図書館	
出席者	委員	多田 龍弘、塩田 武史、早野 眞美、半田 工、良川 秀子
	学 校	国津 賢三(校長)、水川 久美子(教頭) 森 大介(首席)、岩城 智也(首席)、古本 景将(首席)、中野 貴啓(首席・中学部主事)、奥谷 美帆(高等部主事)、山川 了(研究部)
	傍聴人	4名
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「支援学校と地域との連携」について 2. 「応用行動分析学、ポジティブ行動支援を柱とした校内支援の推進」について 3. その他 	
協議内容	<p>開会時、高等部3年キャリアアップコース生徒による「茶育」の成果発表が行われた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校長あいさつ <ul style="list-style-type: none"> 2学期に小・中・高等部で修学旅行をそれぞれ実施したことや今年度より発表の形態を各学年で工夫して行っている文化祭の取組みについて報告した。 2. 「支援学校と地域との連携」について <ul style="list-style-type: none"> 学校経営計画の中期目標に示している地域との連携を充実することや学校周辺施設との交流・連携を推進するために現在行っている具体的な取組みについて報告した。ロート製菓が行っている「手形アート10年プロジェクト」に高等部生徒が今年度参加したことを報告した。また、大阪市立御幸森小学校の跡地に開業した「いくのパーク」のレストラン内で高等部生徒が製作した商品を販売したり、接客したりする計画を進めていることを報告した。 協議委員より、地域のイベントや近隣小学校の行事と学校との繋がりを通じて、地域での支援学校の認識が深まっているという話があった。また、校外での取組みを生徒の実態に応じながら様々な生徒に広げていってほしいという助言を受けた。 3. 「応用行動分析学、ポジティブ行動支援を柱とした校内支援の推進」について <ul style="list-style-type: none"> 応用行動分析学を基に子どもたちの行動の背景や原理から、問題行動に対する具体的な対応方法について、基本的な理論やアプローチについてのコンサルテーションを進めていることを報告した。今後、校内研修会を通じてポジティブ行動支援の具体的な手法や取組みを全校教職員で共有する予定であることを報告した。 協議委員より、ポジティブ行動支援の具体的な手法や取組みへの共感を広げていくことは大切であることや、教員が日常で行っている取組みの一つでもあるので、改めて現在行っている取組みを認識したり、教員間で共有したりすることも大切であるという助言を受けた。他にも児童生徒の問題行動と見える行動の背景には理由があることや、なかなか変化が見えないように感じられる児童生徒も、長い目で見てみるとどの子も変わっていくので、忍耐強く取り組むことも大切であるという助言を受けた。 	
協議資料	「支援学校と地域との連携」について(スライド資料) 「応用行動分析学、ポジティブ行動支援を柱とした校内支援の推進」について(スライド資料)	
備 考	学校見学	